



自信を持てる子供に！

明るく何でも積極的な子供がいる一方で、自身なさげで消極的な子供がいます。子供たちの次の一步に繋ぐためには、大人の関わり方も大きく影響するようです。

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。



この言葉は、昨年度の「わくわく通信13号」でも紹介した、山本五十六氏の有名な言葉です。私はこの「ほめる」という言葉を「認める」という言葉に置き換えて教育に生かすと効果が出てくると思っています。

「やってみせ」で子供たちには、やり方を教えることが大切です。例えば、子供たちに宿題の算数の問題が分からないと尋ねられたときには、やり方を教えて、見守りながらさせてみます。そして自ら問題を解いたことを、必ず認めるのです。褒めるというのは、基準が大人側にあるので、基準以下だと叱責に繋がりがねません。

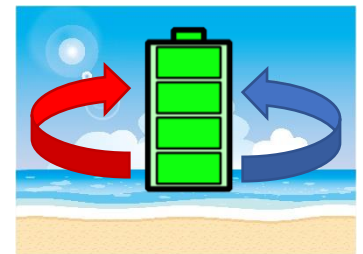
他にも、ご飯なども全部作るのではなく、ある程度の年齢になったら作り方を教えるのです。こうした「一人でできること」の引き出しが増えていくことで、子供は自信が持てます。一人でできるようになったら、任せてみることで成長が加速します。任せたら、途中では口を挟まないことが肝要です。なぜなら、自分でやり切ったことが、子供の自信につながるからです。ここでも過程を認めて、課題があるのであれば、認めた後にアドバイスを送ります。認められた後であれば、素直に受け入れられるし、もっとうまくなりたいという気持ちが高まるからです。

ここで、3つの気を付けることがあります。それは、「周りと比べる」こと、「もっと自信を持ちなさい!」と叱ること、「結果だけを認める」ことです。

また、「ありがとう」「あなたのおかげで助かった」と感謝することも加えると、社会や家族に貢献している感覚を刺激し、自己有用感が高まり、自信も持てるようになってきます。

夢の電池に期待

地球温暖化を食い止めるのに、自動車に注目が寄せられています。ガソリンから排出される二酸化炭素を最も効果的に減らすには、電気などの二酸化炭素を排出しない自動車をたくさん作ることが大切です。ただ、電気を生み出すために化石燃料を使ったり、電気自動車に使われている「リチウム電池」のリチウム



には限りがあったりと課題は山積しています。スマホにもリチウムは使用されていて、電気自動車にはスマホ一万个分のリチウムが必要だそうです。なので、世界に電気自動車を普及させようとしてもリチウム電池が足りないのです。そこで、夢のような電池が開発されています。それが「ナトリウムイオン電池」なのです。材料となるナトリウムは、海水に含まれています。海水なら入手に困ることはありません。それに、ナトリウムは素材としてもリチウムの性質に似ています。まだまだ課題も多く、これから研究開発が進んでいくと思います。海水から高性能な電池、こういう夢のある話に、国も是非バックアップして欲しいと願って止みません。